

第8回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年11月14日 木曜日 午後1時30分～午後3時00分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	○	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	○		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	○	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	×
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	○
	泰地 ひとみ	○		田伏 ひとみ	○
	京谷 常美	○		三浦 和則	○
	宍戸 一江	○		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	×	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	○
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○細江教育推進課長

ただ今の出席者は21名でございます。

審議会条例第7条3項の規定に基づき、出席委員が過半数を超えておりますので、第8回洞爺湖町教育行政審議会を開催いたします。

会議次第2の会長挨拶でございます。

鈴木会長どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

改めましてこんにちは。お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。かなり気温も低くなって、先月お邪魔した時よりも紅葉が始まって、いよいよ冬本番に向けてという形になるかと思います。予定していた12月がなくなったということで、年内これが最後の審議会になるかと思います。

今回は学校教育マターということでいろいろお話をいただきましたけれども、今日は社会教育っていう分野というところで、また各委員の方から洞爺湖町の子どもたちのためにどういう学びをいろいろと整理していこうかというあたりを、ぜひ答申に盛り込められるように各委員の皆様方の忌憚のないご意見等々いただければというふうに思いますので、短い時間ですけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議次第に従いまして、まず議事の(1)、ワークショップで取り上げられた社会教育に関する内容についてということで、これまで皆さんがた各ワークショップで出されたキーワード等々について社会教育マターで皆さん方と共有したいと思いますので、事務局の方よろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。また土曜日の教育講演会の際に参加していただき感謝申し上げます。本日ですが、社会教育施設というところの協議ということで、これまでのワークショップの中での社会教育に関連した部分を振り返りながら、社会教育施設の方に進めていきたいなというふうに思っております。

資料はないんですけども社会教育って何、っていうようなところになるんですけども、横軸が年齢を左から右へというところで、そこに幼保・小学校・中学校・高等学校・大学というところであります。家庭教育、学校教育、そして社会教育、生涯学習という体系図というのがあります。ここで、言葉のイメージは理解できるんですけども、ネットでは家庭教育とはどういうふうに示されているか。学校教育、社会教育、そして生涯学習はどういうふうに示されているかというところです。

家庭教育なんですけども、調べてみると子どもが家庭内で親や家庭から学ぶ基本

的な価値観や生活習慣、礼儀作法を指します。例えば、挨拶の習慣、食事のマナー、日常的なコミュニケーションなどです。これは子どもの人格形成の基礎を築く重要な役割を果たしている。家庭教育は子どもが最初に社会と接する場所であり、愛情と安心感の中で自分のアイデンティティを育む重要な場です。親や家族から言葉や行動を通じて子どもは自己肯定感を養い、社会に出るための土台を築く。

学校教育というのは保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学などで行われる組織的な教育を指す。学校では国語、数学、理科、社会などの学問だけでなく、かつクラブを通して、社会性や協力性も学ぶ。また学問的な知識とともにコミュニケーションスキルやチームワークの重要性を学ぶ場です。また、学校は個々の生徒の自己発見の機会を提供し、自分の興味や得意分野を見つけるための環境でもある。さらに、先生や仲間との関わりを通して、責任感やリーダーシップを育てることができる。将来社会に出たときに必要となる基礎的な能力を養う。

社会教育は、地域社会や団体、図書館や公民館などの施設を通じて提供される教育活動を指します。例えば地域のワークショップ、ボランティア活動、文化イベントなどがこれに当たります。学校の枠を超え、幅広い年齢層が参加して学ぶ機会を提供します。社会教育は地域コミュニティと連携しながら行われるため個人だけでなく地域全体の発展にも寄与します。社会教育を通じて地域の歴史や文化について学び、学んだことを自らの生活に生かすことができ、他者との連帯感や協力の精神を深めることができます。

そして最後、生涯学習です。年齢や環境に関係なく一生を通じて学び続ける姿勢を意味します。例えば趣味の講座に参加したり新しい資格を取得したりすることが挙げられる。学びの場は職場、家庭、社会全体に広がっており、自己啓発やスキル向上を目的とするような形態で行われる。生涯学習は個人が自分のペースで興味や必要に応じて学べる柔軟な学習形態であり、特に現代社会のように変化が激しい時代において重要です。新しい知識や技術を習得することで生活の質を向上したりキャリアの幅を広げたりすることができます。また、学び続けることで精神的な充実感を得ることができ、社会との繋がりを保つことにも繋がります。という部分です。この図を見ていただくと、社会教育っていうのは、家庭教育、学校教育も含んでいるっていう、教える指導者と学ぶ方というようなところで組織的なカリキュラムに基づいてというようなところもあるんですけども、教育から今度生涯学習という学ぶ方、教育から自ら学ぶ、それが生涯学校を卒業しても学び続けるというところ、これが今学校教育でも求められています。学校の義務教育9年間でそこで学びがストップするのではなく、卒業してから自分で主体的に学び続けることが大切である。それが今後その世の中が変化したとしても、自分の成長に活かしたり、地域社会に貢献したり、さらに世界の様々な課題に取り組んでいくということが求められている。そのために教育、学びの場をどうするかっていうのが求められています。

これまでの皆さんから出された部分で、コミュニケーション・多様性というようなところで、社会教育に関わる部分に関していうと、赤枠で捉えた部分、地域とのふれあいを作る、外国人との交流事業、あと観光客との交流などが多く出ておりました。小中連携を含めてというようなところで、観光客との外国人との部分っていうところはありませんでした。また、主体性・挑戦・自立・夢っていうところで、ここを出されていたのは主に地域の企業との連携をして、というようなところで子どもたちがいろいろなことを体験する、挑戦する機会を作っていた方がいいのではないかとこのところなんです。ふるさと教育の部分は、多くの意見が出されておりました。特に自然体験を生かした体験活動、あとは防災に係るジオパークに係る減災・防災体験、また、町の温泉を活用した体験、農業・水産業などの食育の部分、お祭り・町の行事等に参加するというような、ふるさと教育について多く意見が出されております。学力・体力・芸術っていう部分に関しましては、主に芸術館の活用、そこにいろいろな体験活動または講師を呼んでワークショップをするというようなご意見がありました。優しさ、思いやり、協働というようなところでは、子どもと一緒に町内活動を実施したり、高齢者の施設で訪問交流したりというようなご意見がありました。学ぶ環境という部分に関しましては、自治会、役場、人を迎える場所を定期的に行うとか、文化センターの活用、学習発表会、学校祭、合唱とかというようなところもありました。また、世界遺産の活用、あと逆に都会を体験するとか、留学、地元で就職するともらえる奨学金制度を作ってはどうかだろう、というようなご意見もありました。また、ICTを活用して洞爺湖の魅力を日本内外世界に広げていく、伝えていく、専門家の導入、というようなご意見がありました。学校内だけではなく、学校と地域をどう繋げるか、またその他の地域の方々と世界を繋げていけるのか、ICTも活用しながらというようなところで、その学びの環境をどう作っていけるかというようなところが、今後大事になってくるかなというふうに思っております。

先ほどの部分で、家庭教育から学校教育、社会教育って、非常に大事なところにはなってくるかなというふうに思います。全体的に洞爺湖町を俯瞰して、何ができるのかというようなところでたくさんご意見をいただけたらなというふうに思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

事務局の方から社会教育に関わってということで、あとはこれまでのワークショップで出されたキーワードとの繋がりみたいなお話がありました。

私も社会教育は専門じゃないものですから、ちょっとこの場で共有できればなと思って、委員の2号委員が社会教育の方から出ておられるということで、2号委員の方で洞爺湖町社会教育についていろいろとお考えだとか感じる部分あるかと思

うので、ぜひ2号委員の皆さん方からお話いただければありがたいなと思うんですけどいかがでしょうか。

○委員

社会教育っていうのは多岐にわたっている分野があるんですけども、はっきり言うと、今私が考えているのは施設はあるんですけど、施設を十分に活用されてないっていうのがあると思うんですよね。読書の家にしても郷土資料館にしても、いろんなところに施設はたくさんあってもそれが活用されてない。そこに集まる人たちが少ないというような状況なんで、社会教育でやってる事業はたくさんあるんですけど、やっぱりそこに参集する人もまばらというような状況があるんで、もう少し何かPRをするっていうことも必要だし、町民の皆さんにもっと社会教育について浸透させるというか、そういうことを今後ちょっと進めていっていただければなと思っています。

○鈴木会長

ありがとうございます。なかなか社会教育マターの事業とか、施設の活用っていうのが十分じゃないというところで、今、事務局の方からも、いわゆるこの洞爺湖町全体をフィールドワークにして、子どもたちも含めて、どういうふうな活動、関わりを持たせればというようなことも、ワークショップの中で出されたのは、そのあたりの繋がりがあるのかなと思うんですけども。他委員どうでしょうか。

○委員

施設自体には子どもたちが来て何かするっていうのは、基本的に読者の家とかそういうところには結構来るんでしょうけど、それ以外の施設っていうのは、常駐する人もそんなにいないっていうことがあって、なかなか行きにくいっていうのがあるんじゃないかと思います。結局そこに指導者がいるわけでもないんで、その辺を子どもたちが集まる部分というのはネックになってんじゃないかと

○委員

この間の文化祭の展示の準備をしていたときに、ちょうどたまたま別の部屋でハロウィンのイベントで子どもたちがいて、久しぶりに子どもたちの声を聞いて、いや元気でいいなと思って。人が減ってるとか子どもが少ないなと思ってたんだけど、要は子ども会、ああいうものを活発にすれば、いろんな行事なんかできると思うので、それを誰がやるかっていうのがある。

かつては社教主事というのがいましたよね。施設を作ったあとはあんたらで使えと言ったってなかなか使わないと思うんだよね。何が必要か、どういうことをやっていけばいいのかっていうことを、ある程度、専門の人が考えて発信していかないとやっ

ていけないのかなっていう。

僕らの文化サークルなんだけども、教育委員会でね、合唱の講座を冬に開いてくれて、それにあの農家の奥さんだとか、地域の婦人会とか、そういう方々が集まってね、学校の先生もいたね。それでそういうグループができたんだよね。それが約20年以上続いて、もう高齢だったりなんかして、無くなりましたけど、やっぱり仕掛けていく、そういう人が必要なんだよね。だからもう一回教育委員会に社教主事っていうのを置けないのかなと思って。僕らもその社教主事がいろんなことを教えてくれたんだよね。いろんなことを学んだっていうことがあるんで、あるいは婦人会の育成だとか、女性部の育成だとかいろんなことに関わってくれたんで、やっぱりすごい人がいないと、先ほどのワークショップでいろんな洞爺地域のいろんな言い分をいっぱいあげたけど、いるけども誰がどこにどうやってそこから繋いでいくのかっていうのがこれがやっぱりネックだと思う。

○鈴木会長

すごく大事ですよ。いろんな要素があるところをどうコーディネートするか、繋ぐっていうことが、多分、洞爺湖の子どもたちのこれからのっていうことになると思うので、ぜひその辺りも、ちょっと各委員の皆さんからもお考えいただければと思います。他の委員の皆様いかがでしょうか。

○委員

洞爺湖町に住んでるからには、何かしら盛り上げていきたいっていう皆さんの気持ちさがすごく伝わってる部分を感じられます。ただ、委員さんもおっしゃったように、今行われてるお子さんたちとか、地域の人たちの交流を深めたような行事を、次の世代にどうやって繋げていくかっていうのがやっぱり今後の課題なのかなって、私もそういうふうに感じました。

○委員

私は洞爺の方から来たんですが、私の時代もやっぱり社会教育主事っていう人がいまして。乳幼児学級っていうのがあって、赤ちゃんが生まれたらどうやって育てるかとか、その人たちを地域でどうやって見守るかとかね。そういうのは全部パイプとして社会教育主事さんが各小学校の校長先生を講師として絵本の読み聞かせとか、学校に入る前の基本的なことっていうのはどういうことなのかを学んだり、それから婦人学級というのがありまして、あの社会の中で私達がやる役割とか、そういうのも社会教育主事さんが足を運んで。JAと密な関係がありまして、農協青年団の青年部とかOB会とか、それから若妻会も作ってね、それで若いお母さん集まって社会システムを構築してたっていうか。それで合併後なんですけど社会教育主事はい

たと思うんですが、なんか私達に実際会うことがなくて、いつそれがどういう形で変わって行ったのかなとつくづく変だなんて思ってることが一つです。

それからもう一つは、夕べの出来事だったんですが、私は国際交流協会の会員になってまして、毎週水曜日の7時から英会話教室っていうのがあるんですよね。生涯学習も含めて、私はそこに参加させていただいてるんですけど。昨日、虻田から75歳ぐらいかな、それから他のところからお見えになって、孫が英会話をやってるから、ちょっと質問したり、時間のことを聞いたり、そういうお勉強っていうのがここできるとかな、っていう話になってボランティアの青年にお話したところ、今日は時計の勉強をしましょうっていうことで、いくつか例を解いて、そしたらすごく孫に会うのが楽しみになったって。会話の共通点ができてっていうかね。他の委員の方がおっしゃったように、きちっと目に見えるリーダーシップ、専門的な知識がなくても、それに長けている人がそこにいらっしゃると、自分たちの目標もきちっと明確にできて、

ただ集まるのもいいんですけど、趣味の会はそれでもいいんですけど、一応、社会教育っていう、教育っていう名前が付けば、きちっとリーダーシップを取る人がいなかったら、その施設はやっぱり活用されないと思います。

○鈴木会長

なるほど、ありがとうございます。

いわゆるその繋がりというか、どういうふうにして、それぞれの点を線で結んで面にしていくのかってあたりが、非常に社会教育分野でも課題だといいますか、そういう話がありました。

今の話を受けて他の委員の方から何かご感想とか、何か感じる事あればちょっとお出しただければと思うんですけどいかがでしょうか。

○委員

土曜日だけなんですけど子どもたちが30人くらい来る、子ども食堂で活用されている場所はすごくいいんですが、今回暖房が壊れてしまって、これを直すってなったとき、一応今回新しいものが付くと言われてるんですけど、ただ今後のメンテナンスだとか考えるときに、多分永久的に使い続けることはできないんだろうなっていう感じの中でちょっと不安がありながら、でも今はすごく使いやすい中でやっているっていう現状は一つ。

あと、この社会教育施設の現状と課題の資料の2ページ見ながら話してるんですけど、この次の議論なのかもしれないんですけども、今活用されてないってお話もあったので、その中でいくと土曜日に教育講演会があって義務教育校のお話があったんですよ。その中で学校の中の図書室を地域に開放して使っているという状況があっ

て、その中で高齢者の方のサークルの活動だとかをガラス越しに子どもたちが日々、学校の中から見れるっていうことで、地域と世界と繋がるっていうコンセプトでやってる学校だったんですけども、ここのいろんな機能とかを学校に集約して、施設的に難しいところもあるのは重々承知なんですけども、一つのコンセプトとして、そうすると子どもたちも見ることができる、先ほどの引き継いでいけなくちゃいけないというお話もあったかと思うんですけども、そういったことを子どもたちが見て何か興味を持つ機会ができたとか、何かいろんな可能性があったりとか今後どうしようかっというところのちょっと一つのヒントなのかなと思ってちょっと発言してみました。

○鈴木会長

どうもありがとうございます。

今学校にということで、コミュニティスクールっていう言葉を聞いたことある人もおられると思うんですけど。まさにその地域全体で、いわゆるどういうふうにして子どもの学びを支援していくのかというあたりが、今求められていることで、前回のワークショップなんかでも最後の三角形の土台のところに、地域全体が学びのフィールドっていうキーワードがありましたけど。洞爺湖町全体が学びのフィールドになるように、ということで社会教育の分野からとか、学校施設がどうなのかっというところが、多分これから一つステップアップしていかなきゃいけないとこなのかなってすごく思って聞いておりました。

あと他の委員の方から何か感じるものとか、ご感想とかあればお出しいただければと思うんですけどもどうでしょうか。保護者の立場からでもよろしいですし学校教育という学校現場の方からも何かお話いただければありがたいと思うんですけども、いかがですか。

○委員

皆さんもおっしゃる社会教育主事ですかね、例えば図書館であれば司書さんとか、例えばそういう仕掛ける方っていうのがやっぱりいる施設がたくさんあったら困るので、やっぱり集約していく中で、ハードの部分がちょっとあれでしょうけども子どもとそういう高齢者やいろんな世代の方が交わる場所。洞爺の場合は洞爺総合センターというのもあるんですけども、今のお話でいうと総合センターの役割を例えば学校にくっつける。学校と総合センターでそういう英会話教室もそうですけどもいろんなことを、例えば学校でできれば一番、図書室もそうですけど、そういう仕掛けをやはり施設において、管理する方を置いて、夜間とかも使えるようにするとか、そういうようにまた学校ですと不審者の問題もあるので、難しいところもあるんですけども、地域の方とどう触れ合うか、どう交流するかっていうのを、何

か虻田は虻田で考えて、洞爺は洞爺で温泉は温泉で考えていくっていう三つなんですかね、そういうふうに集約していくしかないのかなと思ったりはします。

施設が多いっていうのは資源が分散しますし、そういう仕掛ける人がいるっていうところが、一個あるとみんな来やすいのかなと思いますけど。

○鈴木会長

次の議題で社会教育施設の方の箱物をどうするかということはあるのでこれは後ほど、また事務局の方から資料に基づいて説明していただくと思うんですけども、それ以外で何か他にご意見をお持ちの委員の方おられませんか。学校サイドどうでしょうか。

○委員

今のお話を聞いていて、私も前回の講演会を聞いてました。すごくいい取り組みだなというふうに思っていました。学校の立場で言うと、例えばうちの虻田小学校の図書室を地域の方に開放するとか、家庭科室もあまり使ってないので、開放するってことは可能かと思います。ただ、駐車場の問題とか、あと引っ張る人がやはりいて、仕掛ける人がいないとただ開けても最初はちょっと物珍しさで行くかなとなるかもしれないですけども継続しないと思うんですよ。ですから、そういう立場の人がどういう目的で何のために開放するのかっていうことをしっかりビジョンを持ってやっていくことが大切かなというふうに思って前回の講演を聞いてました。

○鈴木会長

これからの将来のビジョンというか青写真みたいなものをどう描くのかってあたりが多分、これからこの洞爺湖町を担う子どもたちをどうするかっていうふうにも繋がるのかなとお話を聞いて思いました、どうでしょうか他の委員の方から何か。

○委員

ちょっと質問なんですけど、先ほど委員からも出てたんですけど、知らないうちに行政の方の都合なのかわかんないけど、社会教育主事っていうのがなくなったんですよ。配置しなくなったんですよ。でもちゃんと町村の管内の他の町村にはいるんですよ。洞爺湖町としては配置をしていくという考え方は、また再度配置していつて、その団体の育成をすることについて考えているのかどうか。洞爺の方だったら体育主事といって体育関係の事業の指導もしてくれる方がいたんですけども、その辺もまだ団体が完全に醸成されてないんで、そういうところの指導っていうのは必要だと思うんで、そうすると社会教育活動もだんだん進んでいくんじゃないかなって気がするんで、そのあたり町としての考え方っていうか、あれば教えてほしい

んですけどね。

○角田社会教育課長

社会教育主事についてなんですけれども、平成 26 年を最後に 10 年間配置されていない状況です。人員の削減等ありまして、道からの派遣が最後でした。その後配置されておられません。理由としては今言ったような人員の削減等のお話なんですけれども、今は必要だというふうに考えておりますので、ちょっと検討は進めているところですけれども具体化はしていないというところです。

あと、スポーツに関してはスポーツ推進員がおりますので、出前のスポーツ教室だとか、そういった活動もしております。まだ皆さん仕事を持っておられる方なので、最近はそれほど活動が活発になっているわけではありませんので、周知の仕方だとかそういったところからまた充実させていきたいなというふうには思っています。

○鈴木会長

人的な措置ということで、人件費の予算もかかる中、ただ先ほど委員からお話出ましたが、やっぱり各団体が 1 人歩きできるような、そういう体制ができるかどうかという、そこまでの繋ぎといいますかですね、そうすると各団体がこの洞爺湖町の各社会教育分野でどういうふうにして子どもたちのためにだとか、そういう部分があるのかと思うので、そのあたりも答申に人的な配置っていうのもこれから一つ一つ上がっていくためには大事だという要素は入れておいてもいいのかなと話を聞いていて思ったので、そのあたりもぜひ入れていただく方向で考えてみてほしいかなと思います。

後どうでしょうか質問でもよろしいですし、この際、社会教育ってなかなかやっぱりどうなのかなっていうか、私も専門じゃないものですからそういう部分で今日は社会教育っていうところで、各委員の皆さん方と共通に認識できればなと思ってこういう話題にしていますので、ぜひ忌憚のないご意見やご質問をいただければと思います。

○委員

社会教育を進める何か団体っていうのは、決まった団体があるんですか。

○角田社会教育課長

今特に決まった団体というのはないです。例えば NPO 法人のいきものいंकだとか、ああいうのは社会教育活動を推進するような団体。でも皆さんがやってることも文化団体とか、スポーツ団体とか、これも社会教育。社会教育って非常に幅が広くて学校以外の学びや、遊びの場が全て社会教育に含まれているということなの

で、誰もが社会教育活動できるという、そういう個人でも大丈夫ですってことです。

○委員

私は洞爺地区で子ども食堂をやってるんですけど、これは住民ボランティアの子ども食堂なんですけど。総合センターでやっていて、子ども食堂をやったときに、隣の部屋で何か縄文のなんかをやったときがあるんですよ。毎年やってますねきっと、何か作ったり、ちょうど同じ日だったので、子どもたちがご飯できるまで、隣で何か縄文の面白いことやってるから行っておいでと言ったらワーッと行って、その行事に参加できて、そちらの方々も何か子どもがたくさん来てくれて嬉しいって言ってきて、縄文のスタッフの方も帰りにうちの子ども食堂の食事を食べてってくれたりみたいな、交流みたいなことができたときがあったんですよ、なんかすごくいいなって自分でも思っていました。

あと、何か一つの団体とか、あとそういう社会のことをやる人って地域で決まってるんじゃないですか。だから、皆さん1人の人が何役も地域でいろんなことをやってるから、きっとすごく忙しくて、想いはあるけどなかなか体一つじゃ回らないみたいなのが洞爺ではすごい見受けられるので、そういういろんな団体が一緒にできたりしたら、盛り上がるかなとか思いました。

○鈴木会長

本当にその社会教育というのはもう幅広で、どんなことでも社会教育に何らかの関わりがあるというか、その全体に生涯学習という、本当に広い概念みたいな形ですから、多分この洞爺湖町っていう全体のエリアでいろんな素材があるところをどうやってうまく繋いだり、変換したりとかっていう形が多分これから非常に求められるところなのかなっていうふうに思って話を聞いていました。

あと、どうでしょうか他の委員の方からぜひ何かご感想とかあればどうぞ。

○委員

先ほど社会で何かお手伝いしてる人っていうのは限られてるっていう話をお聞きしたんですけども、社会の中で自己の尊厳っていうか、自分が今あるものを何か勉強したり、人に会うことで高めていくっていうことを生涯学習の大きな柱とするならば、社会教育主事っていう人がもしいたとしたら、私の昔の過去を考えますとやっぱこの人はこういうところに長けてるから次この人をお願いしようとかね、人を発掘できるっていうか、人間マップを作れるみたいな働きかけがあって、すごく大切なことだなと思う。それは生涯学習とも結びつけたり、社会学習と結びついたり、学校とを結んだりして、それを一つ大きく包んで作り上げるので、今のいろんな社会問題が

大きくなると、勉強して自分たちが社会の中で疎外されるんじゃないくて、その問題をどうしてかなっていう、考える機会もたくさん出てくると思うんですよね。人として悩んだことを自分でいろんな人に出会ったり学んだりして解決できるっていうことが幸せの一步に繋がるので、ぜひその社会教育っていうのを進めてほしいなと思います。

○鈴木会長

非常に大事なご意見ですね。社会教育の重要性を再認識するというか、結構今いろいろ時代とともに ICT だとかも進歩して違うところにいろいろ力がかかっている部分もありますけど、そもそもどうなんだろうかっていうところも洞爺湖町として大事にしていくっていうことがすごく大事なのかなと今委員のお話を聞いてると思ったところです。

あと、知らない情報が結構あったりとかするので、そういうところをオープンにしながら、どう繋ぐかというあたりが大事ななだと思います。それが多分子どもたちの学びのフィールドを広げていくという形になると思うんですけど。

いよいよこの社会教育っていうのはこういうふうにして大事だと言いながらも、実際、洞爺湖町にある施設、社会教育をする場所がどうなのかってあたりを資料がお手元にあると思いますので、それに基づいて事務局の方から資料の説明をよろしくお願いいたします。

○角田社会教育課長

社会教育施設の現状と課題についてご説明させていただきます。

社会教育施設というのがまず 1 ページになります。社会教育施設は社会教育法に基づいたもので社会教育の奨励に必要な施設でありまして、先ほど皆様がおっしゃられたようなことを行うところ、ということで国や地方公共団体は施設の設置や運営を行って文化的教養を高める環境を作りなさいというふうになっております。また、社会教育のソフト事業などは、地域の実情や予算の範囲内で教育委員会の事務としてやってくださいっていうふうになっているんですね。

(2)については、社会教育施設の役割となっております。大きなくくりとして、様々な学びやスポーツ、体験活動を行う施設で、地域住民が集える場所が社会教育施設の意義であるというふうに言うことができます。また、先ほどご意見ありました社会教育主事なんですけれども、例えばその公民館に配置して、学習や遊びを企画したり事業を企画立案して実践するというような専門職を置く、それと館長を置くというのが公民館の設置条件になるわけですね。ただ、当町では先ほどご意見にもありました通り居ないです。居ないので公民館類似施設という、基準を満たしていないので類似施設という扱いになっております。図書館についてもそうです。館長

と司書がいなければならない。博物館もそうですね、学芸員と館長です。これを満たさないと合わないということです。あとは全部類似施設になります。というような訳はありますけれども、大体分類としてはそんなような形になります。

2 ページです。洞爺湖町の社会教育施設ですけれども、町内には 13 ヶ所の社会教育施設がございます。分類別では社会教育に関するものが 5 ヶ所、文化施設、博物館や資料館ですけれどもこれが 4 ヶ所、スポーツ施設が 4 ヶ所となっております。3 ページの方には、位置図を掲載しておりますが、海側の虻田地区を中心として町内に分散していることが見てとれるかなというふうに思います。先ほどの表ですけれども、築年数を見ると 40 年を超えている施設が 7 施設もありますので必要な修繕を行っているところですが、老朽化が進んでいるという状況となっております。

それから 4 ページになります。洞爺湖町の各種計画での位置づけということですが、ここで紹介する計画につきましては、洞爺湖町で社会教育の推進をどのように進めていくのか、その目標を記載したもので、推進していくためには当然その拠点となる施設が必要となってくるわけです。まず、一つ目は町づくり総合計画になります。この計画は、まちの姿や取り巻く社会情勢も大きく変化する中、次世代とともに安心して住み続けられるまちを創造していくため、中長期的な展望に立った指針として作成されたものであります。この中で社会教育は第 2 章と第 6 章に記載されておまして、この四角の枠に書いてあるところでは、観光の方も入っておりますけれども、まちづくり総合計画ではこういうようなことを推進していきます。というふうに項目を挙げてございます。

次に、第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョンとなります。それをもとにして第 4 次洞爺湖町社会教育中期計画を作成してございます。社会教育を推進していくためには、公民館や図書館などの施設、当町においては類似施設となりますけれども、そういった施設が必要だということは先ほどご説明した通りです。とはいえ、30 年、40 年前とは人口や年齢構成など取り巻く環境が変化しておりますし、財政的な課題もあることから、施設の適正化や場合によっては統廃合も考えていかなければならないというようなことでございます。今言ったような考え方が記載されているのが、6 ページの洞爺湖町公共施設等総合管理計画になります。資料には一部抜粋して内容を掲載してございます。

(1)には社会教育施設を含めて必要な施設、これは老朽化しているけれども町民サービスを行う上で廃止できない施設ということになりますが、これについては複合化や更新を行い、予防保全をしながら改修や維持管理の費用を抑えていきますというようなことでございます。

それから 7 ページです。(2)統合や廃止の方針がこのページには記載され、まず建築物系施設の方針は、真ん中のところで(ア)から(オ)の項目がありますが、このうち(イ)では、施設が老朽化して更新するときは単独の整備ではなく、複合化

や集約化をしますよということ、それから（ウ）では、30 年を超えた施設は検討の対象としますよということ、それから（エ）は廃止とした施設で売却や貸付けなどが見込めないときは解体を基本としますよということなどが記載されています。

8 ページになります。総合管理計画で記載されている社会教育施設の分類ごとの方針となります。ここに掲載している施設はあくまで単独で建っている施設ということになります。サミット記念館の中に入っているみずうみ読書の家というのはここには出てきません。社会教育施設は、基本的には施設の延命化を図るんですが、耐用年数が経過した施設については複合化、複合施設への統合を行って、解体撤去等を検討しますとなってございます。スポーツ施設についても、長寿命化を図りますけれども、プールにつきましては、経年劣化が顕著となった場合は廃止予定、虻田体育館については、将来的に類似施設との統合を検討することとしております。町民文化施設も同様ですが、施設が固定化しているものにつきましては、他の施設への移転集約を含めて有効活用を図ることとしております。8 ページの一番下の表には施設の方向性を複合施設としているものとして、5 施設あげております。これは機能を失うということではなく複合施設にすることで利便性が向上したりといったメリットを考えています。例えば、公民館機能と図書館機能、児童館機能を一緒にすることで社会教育の拠点として多くの人が集う場所となって活気が生まれるといったようなことです。あるいは人口減少に伴って、体育館を一つに集約するなどのことが考えられます。今現在は利用がかなりありますので、すぐにはないのですが、将来的には機能を 1 ヶ所に統合できればというふうに考えているのが、この公共施設等の総合管理計画ということになります。

そして 9 ページになります。近隣市町の状況です。西胆振で各自治体がどれぐらいの施設を保有しているかの一覧となります。洞爺湖町が一番下となるんですが、この中では図書施設ですね、洞爺湖町は 3 ヶ所あります。その他の自治体では本館 1 ヶ所、それと分館分室 1 ヶ所。室蘭は大きく人口も多いので、分室分館が 3、それから移動図書館っていうようなことを事業としてやっております。洞爺湖町はちょっと近隣と比較して施設が多いのかなというようにことがわかるかと思います。また、公民館については位置づけが各自治体によって違いあるんですが、大体 1 ヶ所となっているということになっております。博物館施設については、地域の特性によっても違いがありますが、洞爺湖町は観光地という背景があることから、施設が多くなっているのかなというふうに考えております。それからスポーツ施設ですね。学校水泳プールは現在開設しておりませんが数にカウントしております。例えば豊浦町ではプールを礼文華と大岸でも開設していて 3 ヶ所開設していたんですが、2 年ほど前にこれを止めて豊浦小学校プールの 1 ヶ所というふうにしたと聞いております。近隣に比べて多いから無くすとかいうことではございませんけれども、利用状況ですとか施設の築年数、それから維持管理

費、特に修繕にかかる費用ですよね、そういったことから施設のあり方を検討する時期に来ているのかなということがご理解いただけるかなというふうに思います。

そして、10 ページです。今後の方向性ということなんですけれども、前段はここまでなんですけれども、方向性というよりは、ここでは議論が深まるようにこんなことが考えられるのではないかなというたたき台をご提示させていただきます。

まず、まちづくり総合計画の中で3地域の特性に合った振興策の充実というのを取り上げておりますので、それぞれの地区の特性と施設の分類ごとに拠点となる施設をここで上げておきたいというふうに思います。この中で、洞爺湖温泉地区につきましては社会教育施設として活用している施設っていうのがないんで、温泉街はほとんどが観光施設となっております。しかし、実際には文化センターなどは文化祭の発表などで使いますし、サミット記念館にはみずうみ読書の家が入っている、こういったことから、洞爺湖温泉地区ではサミット記念館のあるあたりが観光等の複合的な社会教育の拠点となりうるというふうに考えております。

そして最後、11 ページですけれども、ここでは具体的に各施設どうするのかということなんですけれども、例えば記載してあるんですけれども、統合する場所につきましては具体的に協議を進めているわけではございません。ここではあくまで選択肢の一つとして、ご理解いただければと思います。まずは社会教育施設の母と子の館です。現在は各種団体が利用しておりますけれども、将来利用が減少してきたときには、体育館機能につきましては虻田体育館と統合して、学びや遊びの場としての機能は虻田ふれあいセンターと統合するということとしております。虻田ふれあいセンターにつきましては公民館機能の拠点として長寿命化を図っていくこととしてはどうかというふうに考えております。それから読書の家、総合センター図書室につきましては、この中ではあぶた読書の家だけが単独の建物となっておりますけれども、建物はだいぶ傷んできている状況です。現在ある公共施設に移転して、さらには将来的には1ヶ所に統合していくのが望ましいのではないかなというふうには考えておりますが、例えば本町保育所が空いた後とか、それからサミット記念館の空きスペースを活用できないだろうか、そんなことで一つの案として、ご提案をさせていただきます。次に町民文化施設ですけれども、貝塚館と芸術館はそれぞれの分野で拠点的に維持していく必要があると考えております。郷土資料館につきましては2ヶ所ありますけれども、噴火前は洞爺湖温泉にありまして、そこに洞爺湖温泉支所が入って管理をしていたという経緯があります。洞爺の郷土資料室は元の洞爺村公民館にあつて、それぞれ場所を移転して現在地に移っているということで2ヶ所あります。郷土の学習ということで観光客にもどんどん見ていただければという、先ほどちょっと郷土資料の話も出たかなというふうに思いますけれども、活用されてない理由としてはそこなのかなという感じを私自身はしております。もっと見せられる場所、人が集まる場所に展示していいんじゃないかなというふうに考えて、サミット記念館っていう空きスペース

かなってというふうを考えているところで、温泉地区だと、洞爺からも地元の人も大体真ん中ではないですけれども、お互いを寄っていけるのかなというふうに思っております。そして最後スポーツ施設です。虻田体育館は母と子の館との統合、それからテニスコートは現在も使っておりますので当面の間は維持っていうことです。ただ、虻中が移転するっていうふうになると、その跡地どうするのっていう話に当然なってきますので、跡地に運動公園みたいなのができれば、そこに集約することも可能かなというふうには考えているところでございます。それから洞爺湖町プールにつきましては、経年劣化が顕著になった場合は廃止するというのは、総合管理計画記載の通りです。代替としては近隣自治体の施設、もしくはこの前ご意見が出ました民間施設の活用というようなことも考えられるかなというふうに思います。学校水泳プールについては前回ご説明いたしましたけれども、施設の劣化が顕著でありますのでこれは廃止としたいと思います。代替としては洞爺湖町プールといたしまして、子どもたちの送迎バスを運行しているところでございます。

以上、既存の施設を利用したあくまで一つの案としてお示しさせていただきました。その他、例えばその1ヶ所に新しく複合施設として新築するという意見もあろうかと思いますが、これが一番最高だと私も思っているんですけれども、おそらく利便性としても申し分ないだろうと思いますけれども、例えば最近で言うと苫前町で14億、あとは占冠で6億ぐらい建設費がかかっているということになりますと、学校の移転・改修そういったものを控えている中では、こちらをちょっと優先できないかなというふうには考えています。ですので、既存の施設を活用した集約化、統合する路線でしばらくは行くご提案をさせていただきました。

ということで、ちょっとざっくりとしたご説明になりましたけれども説明の方は以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

今洞爺湖町の社会教育施設の現状と課題ということでお話がありました。前段は現状はこんな状況だということで、これはもう皆さん方それぞれの関わりで十分認識されている部分だと思います。10ページ以降に今後の方向性ということで、これはあくまで総合計画の中に記載されているものを抜粋してるっていう捉えでよろしいでしょうか。

○角田社会教育課長

はい

○鈴木会長

もう既に総合計画の中で今後の方向性ということで示されている部分ですけど

も、一応この審議会としてはこの答申の中に、先ほど社会教育も子どもの学びということを支える一つとしてどうするかということが議論されていますので、この辺りをぜひ答申の中に入れ込めるようなご意見等々を各委員の皆さんからいただければありがたいなということで、まずは今の事務局からの説明を聞いて、何かご意見や質問等あればお出しいただければと思いますけどいかがでしょうか。

○委員

道立の虻田高校がありますけども、施設っていうのは今後、例えば少子化の中で、どのような方向性があるかっていうのは道との話になると思うんですけども、先ほどの体育館、例えば閉校とかそのような方向性があった場合、虻田高校を活用するか、前回も温泉小学校の話がありましたが、温泉小学校の活用、もし今後の社会情勢的に施設が空いてくる可能性があって活用ができる場合や、洞爺もそうですけども、小学校を中学校に寄せるなら増築する、その中で、図書施設を拡大して、洞爺の総合センターの図書室をなくすとしても、洞爺の中学校の図書室を地域の方に活用できるようなものを増築の中で考えると、要は開放するか、そのように新しく開く施設とかも含めた形で検討していく余地を作っておかないと、例えば虻田高校なくなりました、ずっと使わないですがどうするんですかっていう話がまた出てきて、そういうようなことにならないように、柔軟に今後考えられる施設の活用の余地を残すというか、そういうのが必要かなとちょっと思ったりしました。

○鈴木会長

結局、今後の方向性は既存のものをどうするかというベースで掲載されていますけど、今の委員の話はこれからゆくゆく空いてくる施設が出てきたときの有効活用をどうするかっていうことも一つ考えたらいいいんじゃないかという話だと思うんですね。そのあたり事務局はどうでしょう。

○角田社会教育課長

今まだ何とも言えないんですけども、学校施設が空いて使える状態であれば、改修して使うのが一番いいと思います。例えば学校だと図書室もあるし、いろんな教室を会議室だとか、各種事業に使えるグラウンドもある、1ヶ所に全部集約できそうだなっていうのは考えています。そのときに、議論していく必要があるだろうと思います。それとあと、洞爺地区の図書室の話が出ましたけれども、なくすにしても学校を使えるようにということで、それは当然やっぱり考えていかなきゃいけない、地域の人たちが利用する際どういうふうにしたら利便性を落とさずに活用できるかっていうのは考えていく必要はあると思います。

○細江教育推進課長

今の状況からいって、仮にというお話で委員の方からもお話しいただきましたが、まず虻高については道立学校なのでその部分についてうちで検討するのは非常に難しい話になってくるかなというふうに考えております。温泉小学校の活用という部分では、あそこは当初温泉小学校を建てる際にも避難所施設も兼ねて作っているという部分があるので、今後の温泉小学校がもし一つに虻田の部分か洞爺の部分の一つに仮になったとして、その施設が空いたという部分については、そこは前回の委員会の中でもお話がありましたけれども、その活用については今後検討していくべき案件になってくるのかなというふうには考えております。

○鈴木会長

はいどうもありがとうございます。

あとはどうでしょうか今のお話の中身でもいいですし、違うところの切り込み口でもいいんですけども。

○委員

ウトウラノは社会福祉関連の施設になるんでしたっけ。こういった町の施設として、社会教育はここだけでも、類似するような施設みたいなものでもあるわけですね。

○細江教育推進課長

あそこはアイヌの関係の補助金をもらって使っている施設なので、あそこを社会教育施設にっていうことにはなっていないかなと思います。

○委員

そこは横断するとか、合併とかっていうのはなかなか難しいから、どっちかというところの社会教育の中での合併統合とかっていうところを考えていくっていうことですか。

○細江教育推進課長

はいそうですね。

○委員

社会教育課長から最後に提案のあった統合施設っていうか、そういうのがあれば、例えば昔この本町地区には文化交流会館っていうのがあって、そこに青少年、それから文化・女性いろんな団体が自分たちで自由に使えるようなスペースがあっ

たんですよ。それが今、総合センターを使ってくださいとか、文協あたりは役場の会議室を使って会議してるとかっていう話を聞いてるんですけど、そういう各団体等が自分たちの時間に合わせて利用できるような施設を、図書館も含めてなんですけど、そういう統合施設をどっかにどんと建てるっていう計画を打ち出していただければ、室蘭あたりは東室蘭にできましたよね、社会教育っていうかいろんな団体が使える施設が「きらん」ですか、ああいう施設があれば、結構あそこは人の出入り多い。みんなが活用できるような形になるんじゃないかと思うんで、たくさん施設を直していくよりも、そうやってどんどん建てた方がいいのかなって思うんですけどね。

○鈴木会長

箱物を作ることの予算的なものが、先ほど16億円とかありましたけども、実際的に新しいものでなくて何か既存のもので置き換えられるようなものとか、今後どうするかっていう形も考えていく必要もあるのかなと。私もやっぱりこの資料を見て社会教育施設の適正配置という、学校教育も学校の適正配置っていうのはあるんですけど、社会教育施設の適正配置で複合型とか総合型っていうワードも出てきていますので、そのあたりがこれから何か新たなものっていうよりは、より新しい形を変え行くという考え方になるのはすごく大事だなって思いました。

○委員

新しいものを建てるのはお金がないということであれば、何か社会教育施設同士でまとめるとかそういうのじゃなくて、例えばさっきの虻高も道立だから手を出せませんとかじゃなくって、洞爺湖町の中にある学校なんですから、道立であっても何か意見するとかっていうのも必要じゃないかなと思いますし、洞爺地区で言ったら図書室がなくなる、どこに人が集まるかって言ったら、総合センターとか水の駅とかになってくるので、水の駅は社会教育の施設ではないですけど、何かそっちにまとめるとか、そういう制度とかをもっと取り払って横断的に考えてはどうでしょうと思うんですけど難しいのかしら。

○鈴木会長

鋭いご意見だと思います。

やっぱり横断的にというところで、そのあたりは事務局どうですか今のご意見を聞いて

○角田社会教育課長

そのような考え方です。社会教育が持っている施設だけでは当然、集約化、統合はできませんので観光施設であったり、そういった施設も検討に入れながら進めていけ

ればなというふうに思っています。ただ虻田高校はまだまだまだ続きますので、ちょっと今は議論にならないのかなと思います。

○鈴木会長

それでは高校がちょっと話題になっておりますので、虻田高校のお話を聞いて、ちょっと言いづらい部分もあるかもしれませんが、ぜひ洞爺湖町の各委員がおりますのでお願いいたします。

○委員

そういうことを想定するならば町の方で町立移管という形になると思うんですね。そうすると金額的に向こうから買い取るような形になると思うので、それができるかどうかということだとは思いますが、今は存続ということでそのまま行くようにさせてください。

今言われたように複合化して施設を統合するというのはありかなと思うんですけど、当然その行く先の足がなくなるケースがあるので、それを例えば循環で回せるかどうかだと思うんですね。いくら複合してても例えば体育館をここに1個作っても洞爺の方から来れるかどうかは別の話なので、その施設を結ぶ交通網というのがピストンとかで行ければ何とかなるのかなと思うんです。

僕多分この洞爺地区に来るのが地域的にも7地区か8地区転勤でこうしてるんですけども、行ったときに8,000人くらいいた人口が今は3,000人とか2,000人になった地域があって、いた頃やっていた行事が実行委員がいなくてどんどんなくなっている状況ということを考えると、委員とか音頭を取る人も少なくなるので、もうとにかく1ヶ所に集約するっていうのが非常に大事なのかなと。集約することによって子どもも大人も一緒に施設を使って混ざるっていうのが非常に大事なのかなと思うので、それをどうやってお金をかけずに人をかけずに、ということができるかどうかかなと思ってます。

○鈴木会長

効率的に複合化とか総合化っていうのは、何かメリットがあつてデメリットがあるっていう、そのデメリットをどうやってメリットに変えていくのかっていうあたりが多分、各委員さん方のそれぞれの持ち分で、担当部分で何かできないだろうかっていうところが多分必要になってくるのかなというふうに思うので、ぜひそのあたりはこの後またいろいろと答申の中にもこの社会教育施設のあり方等々については各委員のご意見なんかも入れ込みながら、見ていただきながら、委員の方からご意見等をいただく形になると思いますけども、ぜひそういう関わりでお考えいただければありがたいなというふうに思います。

○委員

私今日何も喋ってないので一言。土曜日の講演聞かせていただいて、私本当にすごくびっくりしたんですけど、学校を卒業してから1回も敷居が高くて行ったことがないのが、早来でしたっけ、その学校の図書館とかそういうところに社会人が行っているというのはすごく夢のような世界だなと思ったんで、ぜひ皆さんもおっしゃっていると思いますけれども、学校の図書館とかそういう我々社会人が入っても一緒にできるようなそういう地域づくりができればすごく嬉しいなと思いますし、何かいろんな趣味をやるにしても、やっぱそういう子どもたちと一緒にとか、子どもたちが教わっている部分も出てくると思いますんでぜひよろしくお願いします。

○鈴木会長

まさに生涯学習という視点ですね。

○委員

土曜日のお話で、学校中心に地域づくりをするという新聞に記事が出た、日本一の公立学校みたいなことが書かれた記事があったんですけど。ああいう取り上げられ方をすると、今社会教育施設の複合ですけど、そこすごく学校を近づけて、今の学校にも入っていけるっていう機能で、学校を中心に町づくりをしていますという感じだと、そこに行きたいと子育て世代は感じるんですよ。新たに子どもを産むかもしれない世代が来るっていうのは全然インパクトが違って、なので社会教育施設を集めたただだと人口は増えない、人は来ないけれども、あそこを超えるぐらいの学校を中心にこういった機能がある総合のまちづくりの例えば明石市兵庫の明石市なんかは、駅前のビルに子育ての総合施設があって、ここでは子どもたちがいくら騒いでもいいよっていうコンセプトで、もうぐちゃぐちゃでわめき散らしても全然それをとがめる大人がいない場所で、近隣から若い世代が入ってくるみたいな、それに近いものを何か学校教育も含めて魅力的なことができる気がするので、そのぐらいしちゃってもいいなと。

あと、実際にこの洞爺地区なんかは人口減のところ見ても、洞爺地区だけ20年30年維持じゃないですか。ある意味周りが減っていても人が入ってきてるんですよ。今も入ってきたいっていう人たちがいて、住宅がないとか、土地がないとかいろんな状態で多分人が入れない状況ができちゃってるんですけど、そこをうまく、それは教育だけでは難しくて町全体で町づくりからやらないと、人が入ってくる状況を作らないと難しいんだと思うんですけど、実際にあの場所で暮らしたいっていう若い世代が既にいるものがあるから、そこにさらにすごい教育みたいなとかあると人が入ってくるんじゃないかなって感じます。

○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

本当に将来像といいますか、まさに教育行政審議会、教育行政としてどうあるべきか、というあたりの各委員からのご意見がこれからの新たな一步になると思いますので、ぜひその答申の中でどういうふうにして表現されているのか、またはどういうふうにして入れ込んでいくべきなのかというあたりは各委員の方からご意見いただければと思います。

○委員

実は今日午前中、虻田高校の公開授業、今週金曜日までやっているものでぜひ行っていただいて、高校生の授業を見ていただければなと思って私が宣伝するのも変ですけど。そこで4階の書道教室を案内していただいたんですけども、そこから見た内浦湾の眺めはもうここはレストランにするべきだろうと私は思いながら見てました。もう店の名前は、天空の城アピュタと、勝手に決めましたけども、いやそれぐらい私達が知らない財産がこんなところにもまだあるんだなっていうところだったり、それから今日のお話の中でも垣根を超えて横断的にというところで、中学校には垣根があって入りづらい、同じように子どもたちもこういった社会教育施設に入るのをためらっていたり、入りづらかったりすることって多分あると思うんですよね。夏にちょっと隣の町の船の形をした温泉に入りに行った途中で、開放的になったところでビリヤードやってたんですよ子どもたちが。そういう社会教育施設にビリヤードを置いて子どもたちがここに来て、何か他のイベントがあったら参加するとか、先ほどの子ども食堂じゃないですけども、そういう垣根も低くして行ったり、私達の発想も豊かにしていかないと、この話をもっともっと発展的にならないのかなと思って話をさせていただきました。

○上林副会長

私のいるところは初等教育コース、小学校の先生を養成しているところなんですけど、毎年2年生になるとこの洞爺有珠地区に宿泊研修っていう行事をやってるんです。それでここにありましたに入江・高砂会貝塚館とか見学に来て、そしたら有珠山を登って利用させていただいてるんですがどうしてかっていうと、小学校の先生になったときに、修学旅行の引率等で来ることが想定されるから、その下準備の事前学習のために引率したときに困らないためにというのが一つと、あと隣の文京台小学校と連携してるんですけど、そこは修学旅行で6年生が必ずこちらに来てるんです。そのときにうちの大学生が一緒に行って同行して、そして案内役をしてるんです。そのために来てるんですけど、それが学生にとってはすごい良い学びになってる

んです。将来に繋がる学びになってるんですけど、ここはいろんな人が観光としてはいろんなことで集まる街だから、何かそういう場所をただ観光者のためにじゃなくて、町民の方、あるいは子どもたちがそういう場所でPRするとか、何かそういうことを複合化させるような場所として広げていくと、もっといろんな活用の仕方があるんじゃないかなと今日思った次第です。

○鈴木会長

前は学校教育、そして今回の社会教育ということで両面からこの洞爺湖町の箱物も含めてどうするかという議論をしていただきましたのでぜひこれも踏まえて、年内これで最後ですけども、また次回に向けてというようなことで各委員お考えをちょっと貯めておいて意見等をまたいただければというふうに思います。

それではまず今の事務局からの資料の説明を踏まえての議事ということで、これで終わりたいと思います。

その他ということで、事務局の方からあればいただければと思います。

○細江教育推進課長

冒頭で鈴木会長のご挨拶の中にもございましたが、当初ご案内させていただいた12月6日金曜日を予定しておりました次の審議会ですけれども、年明け令和7年1月23日木曜日1時半からの開催を予定してございます。

これまで皆さんに審議いただきました内容について、答申案の作成を事務局で行っております。後日、12月上旬になろうかとは思いますが、その答申案につきまして委員の皆様のところにお送りさせていただきたいと思います。それに対してご意見をいただきまして、再度事務局の方で確認修正を行いまして、次回、第9回目の審議会開催前に再度また議案として改めて送付をさせていただきたいと考えております。

また、9回目の開催当日は、最終的に答申案を委員の皆様にも最終確認をいただきまして最終的な答申とした形で整えたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

今事務局からいよいよ答申を教育長に渡すという、そういう話も出てきました。

この委員で、皆さん方といろいろ議論してきたところで、ぜひこの答申に漏れなくそれぞれの思いを表記できるような流れで、送られた時点でいろいろと見ていただければというふうに思います。

ちょっと余談なんですけど、実は私は教育行政の方に勤務していた経験もあって、先ほどの委員の話しにもあったように、行政は硬いんですよね。縦割りという形でど

うしても踏み込めないというところがあって、ただこれだけ時代が変わっていろんなものが変わっていく中で、横断的に使えるものは使う、協働するものは協働するっていう考え方でないとやはり難しいっていうのは、当時私も行政に行って感じたところがあるので、ぜひ洞爺湖町の財産っていうんですかね、町民からの税金も含めての財産ですから、これを有効活用していくっていうことが、洞爺湖町の子どものこれからの繋がりにも大事になってくるかなと思いますので、そういう視点でまた答申案が届いた時はもう穴が開くぐらい見ていただいて、いろいろご意見いただければありがたいなと思います。

それでは、以上をもちまして8回目の教育審議会の方を終わりたいと思います。

15：00閉会